

第6回自転車セミナーを開催しました！

第6回目のテーマは、「世界でいちばん長いハネムーン タンデム自転車の旅」～そして、しまなみ海道の自転車観光振興へ～。自転車好きが高じて、遂にタンデム自転車世界一周を敢行し、「世界の人としまなみをつなぐ架け橋になりたい」と、いま新たに日本・しまなみの魅力を再発見できる旅にいざなうべく、愛媛の地でペダルを踏み続けている、シクロツーリズムしまなみのポタリングガイドである 宇都宮 一成 氏 にご講演いただきました。

日 時：平成23年11月29日（火）18：00～19：30

場 所：自転車会館3号館11階会議室

講 師：宇都宮 一成 氏

テ ー マ：「世界でいちばん長いハネムーン タンデム自転車の旅」

～そして、しまなみ海道の自転車観光振興へ～

プロフィール：1968年生まれ 愛媛県西予市宇和町出身

1997～2007年 タンデム自転車を駆って夫婦で世界一周＜88カ国・105,805km走破＞

現在、愛媛県今治市のNPO法人「シクロツーリズムしまなみ」が運営するしまなみ海道島巡りサイクルツアーガイドとして、サイクリングの楽しみを推進活動中。

著書：「世界でいちばん長いハネムーン（風濤社）」、「88ヶ国ふたり乗り自転車旅（幻冬舎文庫）」など



セミナーの様子

<要旨>

宇都宮氏は、自転車好きが高じて、タンデムで自転車世界一周を敢行し、夫婦で世界88

ヶ国・10年間で延べ105,805kmを走破されました。現在は、愛媛県今治市のNPO法人「シクロツーリズムしまなみ」(<http://www.cyclo-shimanami.com/>)が運営するしまなみ海道島巡りサイクルツアーガイドとして、サイクリングの楽しみを推進活動中です。

今回のテーマは、「世界でいちばん長いハネムーン タンデム自転車の旅」ということで、本日は、一緒に世界一周自転車旅行をされた夫人のとも子さんも同席されております。

前半は、「タンデム自転車の旅」・後半は、「しまなみ海道」の活動についての内容となります。

私は、5歳の頃から自転車に夢中になり、中学生では、通学用の自転車、高校生では、アルバイトをしてスポーツ自転車を購入しました。

大学生になってからは、九州を初めとして中国・東北と、ついには、北海道にまでサイクリングをしていました。愛車は、片倉自転車のスポルティーフでした。ある時、「愛媛の自転車野郎」という記事を地元新聞で見つけたのが、自転車旅行の原点となりました。その後、東京の玉川大学に通っていた時、友人の紹介でとも子さんに会われたとのことです。

まず、本格的に世界旅行を始める前、1992年1月にニュージーランドを旅行(資金は、自転車文化センターにてアルバイトをして調達)した時、たまたまタンデム自転車の集団を見かけ、タンデム自転車の魅力に引かれると同時に楽しいなあと思いました。早速、とも子さんに電話して、世界一周旅行の誘いをされたそうです。

しかし、夫人は、長野県出身で、且つスポーツが苦手ということでもあり、話は聞いていたものの、自然と連れて行かれた感じだったとのことです。前回の旅行同様、資金調達のために4年間清涼飲料メーカーに勤務の後、1997年に出発しました。

走行距離は、1日50~70km、1ヶ月で1500km以上となる時もあり、自転車は、着替え・テント・キャンプ用品等を積載したため、約200kgの重量となってしまった。

アフリカのナミビアは、何もなく、無補給地帯のため、事前に携帯食料(インスタント食品を中心に)を1週間分用意して出発しました。飲料水は、重くなるため携行せず、自動車運転手から譲り受けられました。しかし、日々のメンテナンスをしていなかったため、3ヶ月でホイールクラッシュを引き起こしてしまいました。タイヤのバーストも多々あり、前後輪各70本位消耗し、タイヤの種類によっては長持ち度に変化がありました。旅行中の費用としては、1日1000~2000円・1ヶ月で4~6万円程必要でした。

スペインでは、テントを張る一方、アフリカでは一泊73円で宿泊可能と地域によって様々でした。食事は、ガソリン燃料の調理器具を使用して殆ど自炊でした。余談ですが、以前、私達の体験談を基にタンデム自転車の魅力等について、NHK松山放送局にて取材(自身のガイドによりしまなみ海道観光客より賞賛の声など)を受け放送されました。

それでは、世界旅行中の印象に残ったベスト7ヶ国を、以下のとおり発表します。

- ・ 7 位 南太平洋のフィジー諸島 興味本位に自転車に群がる子供たちの笑顔
とも子さんは、シュノーケリングを体験
- ・ 6 位 3 年目に訪れたアルゼンチン 赤道付近は、ハンパ草原地帯、南方は、ペリ
トモレノ氷河で日系人多く親しみやすい
- ・ 5 位 アフリカのモロッコ イスラム教でアラビア圏
投石・ひったくり・物乞いでサハラ砂漠に
てー安心
- ・ 4 位 トルコ 大寒波でビニールを巻いて束の間の暖
チャイ（紅茶）のおもてなしと共に親日派
- ・ 3 位 アフリカのタンザニア 物資は、貧しくも笑顔・米食中心
（6 年目） 子供が木製の自転車で遊ぶ、ここでのみカメ
ラの盗難（全行程中）
- ・ 2 位 トルクメニスタン ロシア系アジアのイスラム文化圏
（中央アジア） うどん風料理・緑茶・食中毒 3 回
- ・ 1 位 中 国 チベット高原からのチョモランマの景色最高
ギャツオーラ峠 5220m
電気なく太陽光利用
反日的だが友好的な対話がとれた

その他の国として、タンデムは、台湾で協力車と呼ばれ、アメリカでは、愛好家と共に
ショップも多く一家に 4 台程度あり、62 歳と 48 歳でサイクリングする人達もいました。
2007 年 11 月をもって 10 年半の長いタンデム旅行は、終了しました。

全行程中、紆余曲折もあつたらしいですが、御夫妻は、二人三脚で協力しながら楽しく
旅行されたとのこと。

また、同氏の旅行記録として「世界でいちばん長いハネムーン」「88 ヶ国ふたり乗り自
転車旅」他多数の自転車関係の出版物があります。

引き続き、後半は「しまなみ海道」の活動について、講演いただきました。

タンデム旅行から帰国後は、地元で生活を始めるのですが、仕事といえば介護職しか求
人がなく、友人の紹介で 1999 年に開通した「しまなみ海道」にて自転車による地域振興
活性化策を知り、旅の経験も活かせるため、2009 年に今治市内に設立された「シクロツー
リズムしまなみ」にて地域の島々の人々と観光客の相互理解を深めています。

コンセプトとして以下のとおりとなります。

- ①多くの島々の美しさのPR
- ②自転車で渡れる橋（日経おすすりめ 1 位）
- ③島と繋がる（島内サイクリングでの出逢いが魅力）

しかし、平成 11 年の開通当初から比べると年々自転車の貸出数が減少（年間 4 万台弱・持込みサイクリストを含めても 5 万人の利用者）していた頃に、今後の活性化を図るため地元の人々と「しまなみスローサイクリング協議会」を結成し、以下の目標を掲げました。

- ・地産地消の恵み
- ・ガイドの活躍
- ・老舗店舗巡りでまちおこし等

更にプロジェクトの方向性を明確にするため、モニターアンケートを実施したところ、以下の要望が寄せられました。

- ・各島内の詳細なマップ
- ・案内看板の設置
- ・安価な宿泊施設の情報
- ・地元素材を使用した料理
- ・サイクリングを含めた各種トラブルの解消方法等

以上の結果を参考に、下記の内容で現在、様々な取組みを実施中です。

- ①ガイド付きツアーの実施（しまなみ海道を満喫してもらう）
 - ②島内ポタリング（石窯ピザ体験）
 - ③サイクルトレインの委託運行（JR四国と愛媛県の協力により、毎年「しまなみ号」を運行 松山駅を出発→波止浜駅までの 1 時間乗車後、自転車にてサイクリング）他に自転車と公共交通の連携として（往路は、サイクリング・復路は、船舶の利用など）
 - ④サイクルオアシスの設置（空き店舗利用によるサイクリストの休憩場所の確保）
- その他、タンデム車走行規制緩和の促進活動により、愛媛・広島での通行が可能となりました。

さらに、タンデム自転車の活用による婚活（2010 年 11 月・10 組）や地場産の商品を開発して、しまなみ二輪丼・オレンジライスカレー・島とれイチゴのスムージーなどを、シクロカフェ（自転車移動カフェ）にて販売しています。

以上をもって本日の講演終了後、質疑応答となり、以下の質問が寄せられた。

- ・女性サイクリストを増加させる方策について
→自転車好きな女性は、生き生きしており、彼女達の豊富な話題性を情報発信することにより、増加の期待を図りたい。
- ・しまなみ海道内の案内標識が愛媛県では、整備されているが、広島県での設置に際し連携は、図れているのか？

→広島では、車道にブルーラインを導入するなど（なお、愛媛でも実施予定。）、現在では、広島県側が積極的であり、尾道市では、サイクルオアシスの設置も進み、両県の取組みに連携が保たれてる模様。

他に質疑はなく、次回のセミナーは、12月16日（金）18時から、（財）日本サイクリング協会副会長であり臨床歯科医師の加藤元彦氏による「サイクリングが楽しくなる人間エンジンの話」を開催予定です。次回の参加もお待ちしております。

次回開催

<第7回>

平成23年12月16日（金） 18:00～19:30

講師：加藤 元彦 氏（（財）日本サイクリング協会副会長・臨床歯科医師）

テーマ：「サイクリングが楽しくなる人間エンジンの話」

お申込み方法⇒

http://www.bikeecology.bpaj.or.jp/information/2011/post_70.html



このセミナーは競輪の補助金を受けて実施いたしました。

<http://ringring-keirin.jp>